

まっ赤な太陽照りつける
きみと歩いた街に
まっすぐ影がのびる
あざやかな夕焼けを背中に

語りあつて
認めあつて
解りあえる

たくさんの感動を
きつとつながっている未来を信じて

いつか必ずあえる
どんな時も見守っているよ

気持ちを一いつに明るい未来へ
水瀬 風花（宮城県名取市 二六歳）

光の中で息をして
目を閉じれば思い出す
今、たくさんの手と手をとりあつて
皆でぬくもりを感じてほしい

幻でなく在った事を
忘れられるはずもなく
ただ、過ぎてく日々に戸惑つても

ほら、黄色い声が笑っている
その光景はとても尊くて自然で
その魂に助けられる

もう一度、明るい現実を
造りだせるように……
気持ちを「ひとつ」にして歩き出そう

しがらみ
細川大河（希望）（茨城県取手市 三四歳）

しがらみが笑つた
今日もしがらみは
僕に付きまとう
「もういい加減にしてくれ
過去の嫌な思い出は
もう十分だ」

この地で、想いを残して逝つた人たちは
天に 地に 還れたのだろうか？
此所で力尽きた祖父を、思つた。
あなたの命は、私へとつながっている。

そうして私は凍つた大地へ酒を注ぐ。
注いだ場所から霧のような水煙がたち、
小さな骸骨たちが、カタカタと幽かな音を立てな
がら
次々と現れ、空中に溶けて、消えた。

後にはただ、凍つた大地。
見上げれば、宇宙には極光の爆発。

じいちゃん。
あなたから私つながった命は、私の子ども達へとつ
ながっている。

けれど。
子ども達の細胞を 遺伝子を 放射能が毎日切
り裂いている。
私たちは毎日切り裂かれ続けている。

傷付けられた細胞は、見えない血を流し続ける。
血とともに私たちの命と、さらに未来につながる
命が、失われていく。

どうか、子ども達の命が、さらに未来の命へとつな
がりますよう。
子ども達の未来が、希望へとつながりますよう。
そうして私は、極光へと願う。どうか。どうか…。

梅の気持ち
はやしわかば（岩手県北上市 二六歳）
あなたが、花と実をつける木を植えるなら、
どうか私にして下さい。

理由その一、私は地震に負けませんでした。
これから先も、ずっと咲き続けます。
あなたの笑顔を守るために。
理由その二、私の歴史です。
桜が愛でられる前、

でもしがらみは言う
「このまま逃げていたつて
一向に君は
強くなれないよ」

だから僕は
しがらみを受け入れた
楽しい思い出は
全部捨てよう
それが僕と未来をつなぐ
鍵になるから。

希望
美月（岩手県盛岡市 十四歳）

君たちの夢は なに？
自然の美しさが戻ってほしい
波が 和らいでほしい
大地の揺れが 和らいでほしい

かの地の人達の夢は なに？

家族に帰ってきてほしい
地震が収まつてほしい
土地に賑やかさ、活気が戻つてほしい

その夢が希望だよ
僕の夢はね
皆の心を一つにしないでほしい
この地に人を
取り戻す

それが夢。
それが希望。
まるい世界

吉田茉莉子（岩手県盛岡市 二九歳）

世界中の人を幸福にするのと
世界中の人を不幸にするのは
どっちが簡単かつて？

決まつてるじゃないか
世界中の人を幸福にすることはできないよ

いくら世界中の人に等しく

お花見といえは、梅だったんです。
大和なでしこに憧れるあなたには、
私が、オススメでしょう。

理由その三、私がつける梅の実です。
梅干しにしては、いけません。
血圧が高くなつて、しまうので。
梅酒にしては、いけません。
アル中の女性は、モテませんよ。
どうか、梅酢にして下さい。

蜂蜜を入れる人もいるけれど、
どうか、そのまま。
水で割つて、飲んで下さい。
未来の日耶さまと、飲んで下さい。

私は、あなたが大好きです。
私の希望はあなたです。

未来への切符
JIN（福島県郡山市 三五歳）

長そで、
長ズボン、
マスク、
窓 閉めて。
見えない敵と戦うために、
親の心は、とざされていく。

「私、今年、
ソプラノアコーディオン。」
暑さに負けず、
合奏の練習に向かう娘。

「来年は、どんな楽器かな？」
娘のやる気が、
来年への
有「の道しるべ」。

僕等の大地を取り戻そう
岡崎 淳（福島県いわき市 五十歳）
僕等の大地を取り戻そう
蛙の鳴く豊かな大地を
僕等の大地を取り戻そう
田螺の住む豊かな大地を

幸福を与えたとしても
半分の人々は喜んで幸せを感じるけど
残りの半分の人々は
人の幸せを奪おうと考えて
自分と他人をいつも比べて
嘆き悲しむんだ

それじゃあ
世界中の人を不幸にするほうが
簡単じゃないかつて思うだろうけど

いくらこの世界が不幸になつて
幸せを二つ残らず奪われたとしても
それでも
生きている ということの
明るさに気づく事ができる人は
希望を持って
生きていく事ができるんだ

だからこの世の中は幸福でも不幸でもない
均衡のとれた
まるい世界なんだよ

東北に目を向けて下さい
小野寺安世（東京都（実家）宮城県気仙沼市 三二歳）

家から海が見えた、きれいに見えた
そこには、色々な思い出が、人がいた
全部、きれいに、なくなつた
おじも、お隣さんも、おばあちゃんも
亡くなつた、流されて、遠くで見つかった
思い出が、全部流されてしまつたかのよう
リセットされてしまつた気がする
母親が、インタビューで答えていた
何とかしなきゃでもどうすれば

皆、職を失ひ、さまよう現実
テレビを見ると、別世界のよう
日本の政府は、東北を、切りすてる気が
私たちは、普通に暮らしている
都心の普通と東北の普通が元々違う
東北の中でつながるしかないのか
日本政府は何をしてくれるのか
自分達で、何とかするしかない
地盤が沈下して、水びたしの漁港

姿を消した虫達
小声で鳴く鳥達
ひび割れたコンクリートの片隅に
坐り込んでいる人の心

そこには桜は咲かない
人の和もつながらない
もう一度、声を合わせて
緑を讀えよう

僕等の大地を取り戻そう
みんなのいる、豊かな大地を

僕等の大地が蘇れば
蛙は鳴く田の畔道で
僕等の大地が蘇れば
年々、豊かな家が増える

タンポポ、山吹
藤に野すみれ
歩けば、そこに詩が生まれる
人の心も、皆弾む

側では桜が咲き出し
人の和も丸くなる
そして又、山のこたまが
友を讀える

僕等の大地を取り戻そう
みんなのいる、豊かな大地を

それでも、私たちは生きていかなければ
あの波の横をすり抜け、流された人達を
見ながら、生き残つた

私達は、何とかしなければならぬ
悲しむ事も出来ず、日々生活する
希望とは何か、元の町に戻したい
もつと、風通しのよい生活にしていきたい
震災で色々悪くなつたけれど

今まで東北に目を向けられた事があつたか
同情でも何でも良い
東北に生きる権利を希望を持たせてほしい
いまだに、何もなくなつた、部落や
流された親族に、線香をあげると泣ける
9月11日には、合同慰霊祭があるらしい
葬死もあげられず、知らないうちに
火葬されていた親族を思うと有難い
元々、日本のどこを探しても

希望を見つける事が、難しい
今回の震災で、普通の生活がしたいという
希望が沸いた、最低限で良いのだ
震災番組は、辛くて見れない、けれども
忘れない事で生じる希望もあると願つた

極光
サトウ（福島県福島市 四五歳）

大気は痛みを伴い、肌を斬りつけ、凍えた金属は皮
膚をひきはがす。
冷気は鋭角的に体を刺し貫き、私の肺を焼く。
たぶん、私はこの冬を越すことができないだろう。
ダモイ叶わず、此所で果てる。
妻、千恵子よ、隆を、美紀子を、禮子を、幼い
子ども達を頼む。
皆、生きて、幸せになつて、くれ。

大気は痛みを伴い、肌を斬りつけ、冷気は鋭角的に
体を刺し貫くのだと、
この地に降り立ち初めて知つた。
日本に平和が訪れた最初の冬に、祖父は逝つた。
この地での抑留生活が、どれほど陰惨で、凄惨な
ものであつたか。
それを私が知つたのは、成人してだいぶたつてから
だった。